

2010年5月7日

東日本区1998~2011ヒストリアン 吉田 明弘

若人の熱い祈りは百年の歴史をつづる 東京 YMCA 130 周年記念礼拝

東京 YMCA 創立 130 周年を記念する感謝礼拝と記念式典が、5月29日(土)午後、東京・銀座・日本キリスト教団銀座教会で行われます。東京 YMCA の会員には案内が送られています。

関西学院大学教授の山本俊正牧師(東京 YMCA 常議員)が奨励をされます。

東京 YMCA は、日本で日本人によって始められた最初の YMCA です(すでに横浜在住の外国人の間に YMCA はつくられていました)。

今は、違う組織になっていますが、ワイズメンズクラブは、YMCA から生まれ、YMCA への奉仕を第一の目的にかかげ、多くのメンバーが YMCA 会員でありますから、日本の YMCA の誕生物語については、だれも関心のあるところです。

会の模様は、当日配られる『東京 YMCA130 年のあゆみ』の紹介とともに、次号以降に報告する予定です。

Historian's View

『東京キリスト教青年会百年史』(1980年)に、執筆者の齊藤寛さん(元区ヒストリアン・東京北、当時東京 YMCA 副総主事)は 130 年前の発会式の 1880(明治 13)年 5 月 8 日土曜日は気温は、13、少し寒かった、しかし教会堂には熱気があったと記しています。

発会式については、5月4日、同6日であったなどの記録がありましたが、最終的には当時の東京日日新聞や、その日の講演者フルベッキ(Guido Fridolin Verbeck)宣教師の日記から 5 月 8 日であることが、確認されました。

しかし、その後 1979 年になって、東京 YMCA

常議員会は、「事実とは異なるが、創立記念日は、5月4日とする」と決めたそうです。

発会式の会場は、「銀座の教会」であったとよくいわれますが、今回の記念感謝礼拝の会場となる、JR有楽町駅の東側の「銀座の鐘」でも知られる日本キリスト教団銀座教会(同じ 1880 年に創立)ではありません。日本基督一致京橋教会(銀座教会と呼ばれたこともあり、後には数寄屋橋教会)でした。現在の東京・南大塚にある日本キリスト教団巣鴨教会の前身です。

発会式に参加したのは、20 歳代の牧師たちでした。時や場所はともかくとして、彼らが何者であるかを知るとき、ただならないものを感じます。(敬称略)

小崎弘道(こざき・ひろみち)23 歳

後に新島襄の後継者として同志社社長、
霊南坂教会牧師。六合雑誌創刊。

植村正久(うえむら・まさひさ)22 歳

後に明治のキリスト教界の中心的指導者。牧師の養成に尽力。日本 YWCA 会長植村環の父。東京・富士見町教会牧師。

湯浅治郎(ゆあさ・じろう)30 歳

事業家、政治家。早くから減税、廃娼、軍縮を提唱。朝鮮総督府の援助による朝鮮伝道を批判。八男は国際基督教大学初代総長。

田村直臣(たむら・なおおみ)21 歳

会場となった京橋教会、後に巣鴨教会の牧師。早くから女性の地位向上、児童教育に努める。そのため除籍処分を受ける。

神田乃武(かんだ・ないぶ)23 歳

後に英語学者、東京帝国大学教授。英語界、教育会で活躍。国際親善に尽くす。米国の YMCA 活動を紹介。

井深梶之助(いづか・かじのすけ)25 歳

明治学院創立に貢献、後に校長。世界と日本のYMCA運動に尽力。

元良勇次郎（もとら・ゆうじろう）22歳

後に心理学者。東京帝国大学で倫理学、心理学教授。

平岩愼保（ひらいわ・よしやす）20歳

後に日本メソジスト教会の監督。各地の教会で牧師を務めた。

吉岡弘毅（よしおか・こうき）33歳

牧師。後に外交官として征韓論に反対、生涯不戦を主張。

吉田信好、岡田松生の名もあります。

YMCA（Young Men's Christian Association）の「Y」すなわち Young men に「青年」を用いたのは、小崎弘道でした。

明治維新から13年を経えていましたが、モノもヒトも考え方も、すべてが毎日のように変貌していました。憲法が発布直前とはいえ、政治でいえば支配者が代わっただけで、市民の意識が変わったわけではありませんでした。時代の暗い影もありました。

幼少からある時期までは、あるいは徳川幕府、あるいは討幕を目指す藩の体制の中で武士としての教養を身につけていた若者たちが、キリスト教と西洋の文化に接して、国家的な使命感に燃えて銀座に出会いを求め、交わりを重ねて、超教派の「集い・語る場」を作ったのです。

齊藤實さんは、東京基督教青年会について次のように述べています。

「一切の公権力から自由である立場を保ち続ける。政府や地方自治体への追随はなく、資金助成も干渉もまた縁のない、全く民間有志の団体である。キリスト教界に於いても自由な立場にあり、広義の教育活動から見ても制約をうけない。「民間有志性」の高いボランティアな団体として出発した。（中略）主張する者がその同調者を取り込む働きそのものが、構成員としての会員向上に資するというメカニズムを持つ。学びつつ、伝えつつその輪を広げる稀有の団体なのである。」

発会式後の東京YMCAは、毎月2回の会合をもち、1回は会員のための学術講演、1回は一般市民を対象とした公開演説会でした。当時の市内での演説会が盛んで、YMCAと自由民権運動に二分されていました。自由民権運動にもクリスチャンが多く、親しい交流がありましたが、一線を画していたようです。しかし、後年、中心人物である片岡健吉（後に衆議院議長）、本多庸一（青山学院の創立者）、江原素六（麻布中学創立者）らが、YMCA運動に加わりました。

やがて、YMCAは、牧師中心から一般人の運動に変わっていきます。日本にワイズメンズクラブが誕生する48年前のことです。

心に残るひとこと 「倍返し」

故海老沢義道さんは、牧師であり、YMCA主事であり、ワイズメンとして、横浜、札幌、東京武蔵野、東京西に所属しました。

少ない会費でなんとかクリスマス例会を楽しもうと、皆でやりくり算段している時に、「ボクは、会費を3,000円払ったら、6,000円の満足を受けたいな。YMCAとは、そういうところだ。」

あとがき

歴史的資料の保存がヒストリアンの重要な仕事だとは承知していますが、それだけでいいんだろうかという思いがずっとありました。

いろいろな事が起こる中で、以前にこんなことがありましたよ、こんな考え方、意味がありましたよ、と言えたら、少しはお役に立つのではと、おこがましくも考えました。

うまくいかなければ、やめれば良いと、とにかく始めてみます。なぜ、この時期に、というご疑問がありましょ。

国際大会のプログラム委員のはしくれとして、それなりに忙しいのに。昔から、試験勉強を始めなければならぬときになると、面白い遊びを次々に思いつくタチなのです。

まずは、神妙にスタートします。